

第 1 1 節 総合的な学習の時間

第 1 本資料の活用について

1 作成の基本的な考え方

- ・ 「中学校学習指導要領」、「中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編」及び「埼玉県中学校教育課程編成要領」の趣旨及び内容を踏まえ、学習指導・評価計画を作成する際の参考となるよう指導計画の作成から学習評価の考え方、実際までを系統的かつ具体的に取り上げて作成した。
- ・ 横断的・総合的な学習を通して、設定した探究課題に仲間や多様な人々と協働しながら粘り強く向き合い、学びを深めていくという総合的な学習の時間の目標が、教育課程全体に関連することを踏まえた活動等を示している。

2 取り上げた内容

第 1 本資料の活用について

第 2 総合的な学習の時間における学習指導と評価

- 1 育成を目指す資質・能力の三つの柱について
- 2 「探究的な見方・考え方」を働かせる指導のポイントについて
- 3 総合的な学習の時間における「粘り強く学習に取り組もうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」の指導と評価について
- 4 観点別学習状況の評価の観点について
- 5 評価の進め方について
- 6 総合的な学習の時間における ICT の活用について

第 3 単元計画の作成、指導と評価及び改善

- 1 単元計画の作成、指導と評価及び改善の考え方
- 2 単元計画の基本的な考え方
- 3 探究的な学習の過程における「主体的・対話的で深い学び」の視点
- 4 単元の指導と評価の計画例

第 4 本時の学習指導（学習指導案）と評価及び改善

- 1 本時の学習指導と評価及び改善の考え方
- 2 学習指導案の事例

3 本資料の活用にあたって配慮すること

3-1 指導上の配慮事項

生徒の主体性を重視しつつ、適切な指導・支援を行い、変容する姿を見取る。また、「主体的・対話的で深い学び」の視点で不断の授業改善を図る。

3-2 評価上の配慮事項

各学校で目標や内容を適切に設定して評価する。また、生徒の成長している点や育成された資質・能力を積極的に評価する。評価方法は、①信頼される評価方法、②多面的な評価方法、③学習状況の過程を評価する方法であることが重要である。

3-3 校内推進体制の充実

校長のリーダーシップの下、指導体制や実践を支える運営体制を整備する。また、学校間連携や家庭及び地域の教育資源・学習環境の活用を意識した計画等を作成する。さらに、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」（国立教育政策研究所）等も活用する。

4 学力・学習状況調査の活用

- ・ 総合的な学習の時間で、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる生徒ほど教科の平均正答率が高い傾向にあることが明らかになっている。そこで、自校の実態を確認し、学習過程を探究的にしたり、他者と協働して主体的に取り組む学習活動を展開したりする。
- ・ 生徒が各教科等の学習で身に付けた資質・能力を活用・発揮しながら、課題解決に向けて取り組んでいくようにする。また、学習の基盤となる問題発見・解決能力等を多様な活動を通して身に付けさせることが求められる。

指導計画作成の留意事項
編成要領（編 P174）で示された「指導計画作成にあたって留意すべき事項」との関連についても本資料で示していく。
(1) 「特別な配慮を必要とするなど課題を抱えた生徒への指導」の視点
(2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点
(3) 「教科等横断的」な視点
(4) 「社会に開かれた教育課程」の視点
(5) 「道徳教育の充実」の視点
(6) 全体計画及び年間指導計画の作成に係る留意事項
(7) 目標並びに各学校において定める目標及び内容を踏まえた適切な学習活動
(8) 各学校における総合的な学習の時間の名称
なお、本資料で示されていない(6)～(8)については、学習指導要領解説その他資料を参照すること。

第2 総合的な学習の時間における学習指導と評価

1 育成を目指す資質・能力の三つの柱について

- ・ 総合的な学習の時間で育成を目指す資質・能力は、「よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力」と規定するとともに、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」と三つの柱で整理している。
また、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力については次の点に配慮する。
- ・ 「知識及び技能」については、他教科等及び総合的な学習の時間で習得する知識及び技能が相互に関連付けられ、社会の中で生きて働くものとして形成されるようにすること。
- ・ 「思考力、判断力、表現力等」については、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現などの探究的な学習の過程において発揮され、未知の状況において活用できるものとして身に付けられるようにすること。
- ・ 「学びに向かう力、人間性等」については、自分自身に関すること及び他者や社会との関わりに関することの両方の視点を踏まえること。

2 「探究的な見方・考え方」を働かせる指導のポイントについて

- ・ 「探究的な見方・考え方」とは、各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会や実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続けるという総合的な学習の時間の特質に応じた視点や考え方であり、以下の点に留意する。

2-1 学習過程を探究的にすること

課題設定では、実社会や実生活に向き合う中で、自ら課題意識をもち、その意識が連続発展することが欠かせない。情報の収集では、課題意識や設定した課題を基に、観察、実験、見学、調査、探索、追体験などを行い、課題の解決に必要な情報を収集する。整理・分析では、収集した多様な情報を分類したり、細分化したりして因果関係を導き出し分析する。まとめ・表現では、情報の整理・分析を行った後、それを他者に伝えたり、自分自身の考えとしてまとめたりする。こうした学習活動を繰り返していくことが探究的な学習を実現することにつながる。

2-2 他者と協働して主体的に取り組む学習活動にすること

多様な情報を活用して協働的に学ぶためには、体験を通して得た情報を交換しながら課題を明確にしていく。異なる視点から考え協働的に学ぶために、情報を比較したり分類したり関係付けたりする。力を合わせたり交流したりして協働的に学ぶために、友達と協力したり地域の人や専門家などと交流したりする。主体的かつ協働的に学ぶために、自らの学習活動を振り返り、その価値を確認し合う。

3 総合的な学習の時間における「粘り強く学習に取り組もうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」の指導と評価について

- ・ 総合的な学習の時間においても、主体的に学習に取り組む態度の評価については、「知識及び技能」を獲得したり、「思考力、判断力、表現力等」を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、自らの学習を調整しようとする側面という二つの側面から評価することが求められる。
- ・ この二つの側面は、総合的な学習の時間を含めた実際の教科等の学びの中では別々でなく、相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられる。

4 観点別学習状況の評価の観点について

- ・ 総合的な学習の時間においては、学習指導要領が定める目標を踏まえて各学校が目標や内容を設定するという総合的な学習の時間の特質から、各学校が観点を設定するという枠組みが維持されているが、資質・能力の三つの柱で再整理した新学習指導要領の下での指導と評価の一体化を推進するため、評価の観点については、これらの資質・能力に関わる「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で整理されている。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解している。	実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。	探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとしている。

- ・ 次に、各学校で定める内容のまとまりは、「目標を実現するにふさわしい探究課題」と「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」の二つによって構成される。(編 P178参照)
- ・ 各学校においては、「内容のまとまりごとの評価規準」に沿って、単元の評価規準を作成しなければならない。作成の基本的な手順は、次のとおりである。

＜単元の評価規準の作成手順について＞

4-1 各学校において定めた目標と「評価の観点及びその趣旨」を確認する。(A中学校第2学年の例)

A 中 学 校 の 目 標	探究的な見方・考え方を働かせ、地域の人、もの、ことに関わる総合的な学習の時間を通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。		
	(1)地域の人、もの、ことに関わる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域の特徴やよさが分かり、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることを理解する。	(2)地域の人、もの、ことの中から問いを見だし、その解決に向けて見通しをもって調べ、集めた情報を整理・分析し、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。	(3)地域の人、もの、ことについての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、自ら社会に参画しようとする態度を養う。

【観点ごとのポイント】「評価の観点及びその趣旨」については、目標の文末(波線)を次のようにする。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	***理解している。	***身に付けている。	***参画しようとしている。

学校において定めた目標のうち、「知識・技能」の文末を「～について理解している。」「～身に付けている。」などとする。同様に、「思考・判断・表現」の文末を「～している。」「主体的に学習に取り組む態度」の文末を「～しようとしている。」などとして設定することが考えられる。

4-2 各学校において定めた内容の記述(探究課題ごとに作成した「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」)が、観点ごとにどのように整理されているかを確認する。

A中学校第2学年「地域の自然環境とそこに起きている環境問題」は、次のようになっている。

目標を 実現 するに ふさわ しい 探究課題	探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力		
地域の自然環境とそこに起きている環境問題	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然環境は人間の生活の変化とともに変わるものであること、持続可能な環境の実現には多様な問題が存在していることや問題の解決に向けて取り組む人々や組織があることを理解する。 ・調査活動を目的や対象に応じた適切さで実施することができる。 ・持続可能な環境の実現に関する理解は、地域の自然環境とそこに関わる多様な人や組織との関係を探究的に学習してきたことの成果であることに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然環境への関わりを通して感じた関心をもとに課題をつくり、見通しをもって計画を立てることができる。 ・課題の解決に必要な情報を、効果的な手段を選択して多様に収集し、種類に合わせて蓄積することができる。 ・課題解決に向けて、多様な情報の特徴に応じて整理し、考えることができる。 ・相手や目的に応じて、分かりやすくまとめ、表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に向け、自分の特徴やよさに気付く、探究活動に進んで取り組もうとする。 ・自他の意見や考えのよさを生かしながら課題解決に向け、協働して学び合おうとする。 ・地域との関わりの中で自己の生き方を考え、自分にできることを見付けようとする。

4-3 「観点ごとのポイント」を踏まえ、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

前述の4-2に示した資質・能力を「知識・技能」では、文末を「理解している」などとし、評価規準を作成することが可能である。同様に、「思考・判断・表現」においても文末を「している。」「主体的に学習に取り組む態度」においても文末を「しようとしている。」などとし、作成が可能である。

4-4 単元の目標に示された資質・能力を踏まえ、目指すべき学習状況としての生徒の姿を想定し、単元の評価規準を作成する。

学習活動(探究の過程)や配当時間に応じて重点的に評価する場面を位置付けていく。また、複数の過程を対象とした評価規準が設定される場合もある。

A中学校第2学年の単元の目標及び評価規準は、次のようになっている。

【単元目標】 ○○市における自然環境に関する調査活動を通して、自然環境は人々の生活や地域の特徴と深く関わっていることを理解し、持続可能な視点から多面的に自然環境の在り方について考えるとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①持続可能な自然環境の実現には、そこに存在する多様な問題の解決に向けて人や組織と目的を共有して取り組むことが必要であることを理解している。</p> <p>②まちの環境がどのように変遷してきたかを捉えるための調査を、対象に応じた適切な方法で実施している。</p> <p>③○○市の自然環境に関する問題状況と自分たちの生活との関わりについての理解は、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。</p>	<p>①まちの変遷と調査活動とを結び付けることを通して、○○市の環境における問題を明らかにし、解決への見通しをもって計画している。</p> <p>②まちの環境に関する現状を捉えるために必要な情報について、多様な方法の中から効果的な手段を選択している。</p> <p>③収集した情報を比較・分類することで、「効果がすぐに表れる取組」、「多くの人を巻き込むことができる取組」につながるものとして整理しながら解決に向けて考えている。</p> <p>④持続可能な自然環境の実現に向け、調査結果をグラフや地図、写真を使って効果的に表し、「環境フォーラム」で訴えている。</p>	<p>①調査活動の振り返りを通して自ら設定した課題の価値に気づき、自分の意志で探究的な活動に取り組もうとしている。</p> <p>②自然環境への市民の関心を高めるための実効性のある取組の実施に向け、自他の考えを生かしながら、協働して取り組もうとしている。</p> <p>③持続可能な自然環境を次世代につなぐために、自分の生活を見直し、地域と協働しながら自分にできることに取り組もうとしている。</p>

※ 個人内評価の扱いについて

観点別学習状況の評価になじまず個人内評価の対象となるものについては、生徒が学習したことの意義や価値を実感できるように、日々の教育活動等の中で生徒に伝えることが重要である。特に「学びに向かう力、人間性等」のうち「感性や思いやり」など生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価し生徒に伝えることが重要である。

5 評価の進め方について

・ 観点別学習状況の評価を実施するに当たり、まずは年間の指導と評価の計画を確認することが重要である。その上で、学習指導要領の目標や内容、「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方等を踏まえ、次のように進めることが考えられる。

5-1 単元の目標及び評価規準を作成する。

学校において定める内容（「目標を実現するにふさわしい探究課題」及び「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」）をよりどころにして、中核となる学習活動をもとに、どのような学習を通して、どのような資質・能力を育成することを目指すのかを明確にして単元の目標及び評価規準を作成する。

5-2 指導と評価の計画を作成する。

具体的な活動に沿って、評価場面や評価方法を計画する。評価の資料（生徒の反応や作品等）を基に、「おおむね満足できる」状況（B）を考えたり、「努力を要する」状況（C）への手立て等を考えたりする。

5-3 授業を行う。

5-2を踏まえて評価を行い、生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる。

5-4 総括する。

活動や学習の過程、作品や成果物、発表や討論などに見られる学習の状況や成果などについて、生徒のよい点、学習に対する意欲や態度、進歩の状況などを踏まえて、評価結果を総括する。

6 総合的な学習の時間におけるICTの活用について

総合的な学習の時間においては、「課題の設定」、「情報の収集」、「整理・分析」、「まとめ・表現」という探究のプロセスを繰り返しながら探究的な学習を発展させていく。これらのプロセスにおいて情報機器や情報通信ネットワークを有効に活用することによって、探究的な学習がより充実するとともに、生徒にとって必然性のある探究的な学習の文脈の中でそれらを活用することにより、情報活用能力が獲得され、将来にわたり全ての学習の基盤となる力として定着していくことが期待される。

第3 単元計画の作成、指導と評価及び改善

1 単元計画の作成、指導と評価及び改善の考え方

- ・ 単元の指導計画の作成に当たっては、年間や、単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにする。その際、生徒や学校、地域の実態等に応じて、生徒が探究的な見方・考え方を働かせ、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習や生徒の興味・関心等に基づく学習を行うなど創意工夫を生かした教育活動の充実を図る。
- ・ 単元の評価計画の作成に当たっては、各学校で定めた総合的な学習の時間の目標及び内容に基づいて、育成を目指す資質・能力が身に付いているのかを継続的に評価できるようにする。累積した評価を基に、生徒一人一人が、どのように成長しているか、資質・能力が確かに育成されているかどうかを捉え、教師が生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価することにより、生徒自身が学習したことの意義や価値を実感できるように指導と評価の改善を図る。
- ・ カリキュラム・マネジメントの三つの側面である「教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと」「教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと」「教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと」に留意しながら教育課程を評価していく。このような教育課程の評価は、同僚教師間での情報交換や、全校体制での組織的な取組を進めることが大切である。

2 単元計画の基本的な考え方

- ・ 総合的な学習の時間の学習活動については、探究的な学習であることを重要な要件の一つとしている。したがって、総合的な学習の時間では、生徒にとって意味のある課題の解決や探究的な学習活動のまとまりとなるように単元を計画することが大切である。このことを踏まえて、単元計画を作成するに当たっては、次の事項に留意する。

2-1 生徒の関心や疑問を生かした単元の構想をすること

総合的な学習の時間では、生徒の関心や疑問が単元の源であり、単元計画を作成する際の出発点でもある。そこで、生徒の関心や疑問に対して、総合的な学習の時間において価値ある学習に結び付く見込みのあるものを、教師が教育的な意図で選択して取り上げるようにする。

2-2 意図した学習を効果的に生み出す単元の構成をすること

生徒の関心や疑問を源とする生徒主体の活動の中で、いかにすれば教師が意図する学習を効果的に生み出し、資質・能力を育成することができるかに留意する。単元を構成するに当たっては、学習の展開における生徒の意識や活動の向かう方向を的確に予測するとともに、十分な教材研究を行うことが大切である。

2-3 教師の指導性を発揮すること

生徒が収集した情報を把握し、有効な思考ツールを用意して生徒が整理・分析できるようにしたり、板書等で考えを整理したりするなど教師の指導性を発揮することが重要である。また、総合的な学習の時間では、いかに周到に単元計画を作成しても、教師が想定した以上の生徒らしい発想や追究の姿が見られることがある。そこで、生徒の探究の様子や意識の流れ等を常に捉え、当初作成した年間指導計画や単元計画を見直し、修正をしていくことが必要になる。

3 探究的な学習の過程における「主体的・対話的で深い学び」の視点

3-1 「主体的な学び」の視点

「主体的な学び」とは、学習に積極的に取り組ませるだけでなく、学習後に自らの学びの成果や過程を振り返ることを通して、次の学びに主体的に取り組む態度を育む学びである。生徒が主体的に学んでいく上では、課題設定と振り返りが重要となる。

3-2 「対話的な学び」の視点

「対話的な学び」とは、他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深めるような学びである。探究的な学習の過程を質的に高めていくためには、異なる多様な他者と力を合わせて課題の解決に向かうことが欠かせない。なお、「対話的な学び」は、学校内において他の生徒と活動を共にするというだけでなく、一人でじっくりと自己の中で対話すること、先人の考えなどと文献で対話すること、離れた場所を ICT 機器などでつないで対話することなど、様々な対話の姿が考えられる。

3-3 「深い学び」の視点

「深い学び」については、探究的な学習の過程を一層重視し、これまで以上に学習過程の質的向上を目指すことが求められる。総合的な学習の時間における探究的な学習の過程が充実することにより、各教科等で育成された資質・能力は繰り返し活用・発揮される。そのことによって、生きて働く知識及び技能として習得され、未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力等が育成され、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性等の涵養につながる。

4 単元の指導と評価の計画例

＜事例1＞「秩父地域の歴史と文化、環境とその伝承」を探究課題とし、特色ある秩父地域の歴史や文化を理解し、郷土へ愛着をもたせることをねらった事例
 第1学年「秩父を知る～祭りに関連させて～」学習指導要領との関わり：地域や学校の特色に応じた課題

4-1 単元の指導計画作成に当たっての工夫、配慮事項等

生徒が興味・関心をもちやすいよう単元名の副題として祭りとの関連を設定する。また、探究的な学習の過程が充実するように、各教科等の学習を生かしたり、考えるための技法を活用したりする活動を意図的・計画的に単元の中に設定する。また、学習を通して郷土愛を培っていくことで道徳教育と関連させる。

4-2 単元の学習評価に当たっての工夫、配慮事項等

単元を三つのまとまりに分け、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点を各まとまりでバランスよく評価するように工夫した。毎時間、ワークシートを用いた記録を行うが、評価の見取りはまとまりの中で行うこととする。

1 単元名 「秩父を知る～祭りに関連させて～」(第1学年 50時間)

2 単元の目標

秩父地域の歴史や文化、環境と祭りとの関連や、他の地域の文化や祭りを調べることを通して、秩父地域の魅力や伝統の素晴らしさを伝える人々の思いや願いを理解し、郷土の歴史・文化・環境と祭りについて考えるとともに、自らの生活や行動について生かすことができるようにする。

3 生徒の実態 (省略)

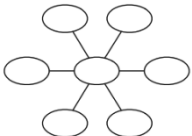
4 教材について (省略)

5 単元の評価規準

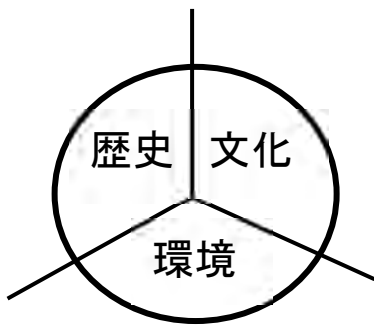
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①秩父地域の歴史、文化の特色、環境の特徴、また、それらと祭りの関わりについて理解している。 ②秩父地域の特徴と祭りの成り立ちがどのように関係しているかの調査計画の立案やインタビューの内容、収集した情報を適切に文章や図を用いてまとめている。 ③秩父地域の歴史、文化の特色、環境の特徴と祭りの伝統継承についての理解は、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。	①秩父地域の特徴を想起していく中で生じた疑問から自ら課題をつくり、解決に向けて自分にできることを考えている。 ②秩父地域の歴史・文化・環境と祭りの成り立ちとの関係について、多様な方法の中から効果的な手段を選択している。 ③秩父地域について収集した情報と川越との共通点や相違点を整理し、分析している。 ④収集した情報の分析結果や自分の考え(考察等)を生かし、「PRポスター」を分かりやすく工夫して表現している。	①友達の考えや意見を尊重しながら、課題に対して調べたり、まとめをしようとしていたりしている。 ②友達との協働的な活動を通して、地域の祭りを含めた文化や環境の課題の解決に取り組もうとしている。 ③秩父地域の特徴と祭りについて調べたことを生かして、秩父地域の発展に参画しようとしている。

6 単元の指導計画と評価計画

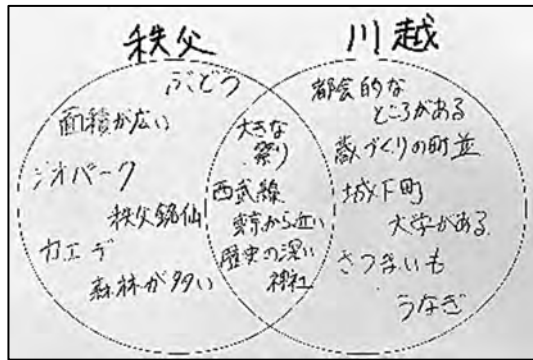
※「課題」：課題の設定 「情報」：情報の収集 「整理」：整理・分析 「表現」：まとめ・表現

過程	○学習活動 ・生徒の思考	・指導上の留意点 ○評価 (評価方法)
【小単元1 秩父地域の特徴について考えよう】(10)		
課題	○オリエンテーション(1)	・総合的な学習の時間の進め方やねらいについて
	小学校で経験したことを生かした調査・表現方法になるように指導する。	て確認し、学習に見通しをもつことができるようにする。
課題	○秩父地域の特徴について想起したり、話し合ったりする。(2) P280 指導計画作成の留意事項(2)	・右記のような「イメージマップ」を使って、秩父地域の特徴(歴史と文化、文化と祭り、環境と文化、環境と祭りの関係など)を想起する。 ・秩父地域の特徴を話し合うことで、秩父の歴史・文化・環境への関心を高める。また、祭りがその特徴に由来していることが多いことに気付くようにする。 ○思・判・表①(発言・ワークシート)
	思考・判断・表現①の姿を「課題を設定し、しっかりと見通しの探究計画を立てている。」という具体的な姿に捉え直して評価する。	


総合

<p>整理</p>	<p>○話合いの内容を整理し分析する。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなの発表内容を「歴史・文化・環境」に分類したい。 <p>知識・技能①の姿を多面的に捉えるために、「話し合う姿」「発言内容」「ワークシート」などから、総合的に評価する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Yチャートを用いて「歴史・文化・環境」に分類しながらまとめるようにする。  <p>○知・扱① (行動・発言・ワークシート)</p>
<p>情報表現</p>	<p>○図書やインターネットを活用して秩父地域の特徴を調べ、発表する。(5)</p> <p>共有しやすいように、ワークシートを画像としてPCやタブレットに取り込み、プロジェクターで投影するように工夫する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話合いをして、解決していない疑問や未発見の特徴を見いだせるようにする。 ・どのようなことを、どのように調べたか、また、これからどんなことを重点的に調べていきたいかを発表する。 <p>○態① (発言・行動・ワークシート)</p>

【小単元2 秩父地域と川越の歴史・文化・環境と祭りについて考えよう】(28)

<p>課題情報整理</p>	<p>○重点的に調べたい内容から個人課題を決め、民俗資料館やまつり会館を見学して、調査した内容を整理する。(4)</p> <p>博学連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・祭りと関連させた課題を設定するようにする。 ・資料館の見学だけでなく、資料館の方へインタビューができるように準備する。 ・学習発表会で活用するために、見学メモをワークシートに整理するようにする。 <p>○知・扱② (発言・行動・ワークシート)</p>
<p>情報</p>	<p>○個人課題について、図書やインターネットで調べる。(3)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料館等で得た情報を補足したり、得られなかった情報を得たりするように促す。 <p>○思・判・裁② (行動・ワークシート)</p>
<p>情報整理</p>	<p>○校外学習における調査を通じて、秩父地域と関連付ける。(11)</p> <p>川越と比較することを通して、秩父地域の特徴を見いだすように工夫する。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・秩父地域と川越の歴史・文化・環境のそれぞれの祭りとの関連を重点的に調べるようにする。 ・ワークシートを活用して、これまでの調査・分析した結果を手がかりに、秩父地域の特徴について考察できるようにする。 ・「ベン図」を用いて、秩父と川越との共通点と相違点を整理する。 <p>○態② (発言・行動・ワークシート)</p> <p>主体的に学習に取り組む態度②の姿を「校外学習の目的を果たせるように、友達と協力しながら調査活動の充実を図られている。」という具体的な姿に捉え直して評価する。</p>
<p>整理表現</p>	<p>○秩父地域の特徴を川越と比較したり、まとめたりする。(10)</p> <p>小学校の学習や技術科の学習を生かし、他人に伝わりやすい、分かりやすいスライドショーを作成できるように指導する。</p> <p>P280 指導計画作成の留意事項(3)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションソフト(アプリ)を使ってまとめられるようにする。 ・プレゼンテーションソフト(アプリ)を使用し、発表する際、スライドの棒読みでなく、要点を説明し、決められた時間内で発表できるようにする。 ・発表を聞く生徒は、質問するなど双方向のやり取りとなるようにする。 ・プレゼンテーション用のスライドを印刷し、廊下に掲示する。 <p>○思・判・裁③ (行動・スライド)</p>

【小単元3 秩父地域をPRしよう】(12)

<p>課題</p> <p>情報</p> <p>情報</p> <p>整理</p>	<p>○秩父地域の発展に参画する計画 (PRポスターづくりの計画)を立てる。(1)</p> <p>○観光案内所や駅などへの訪問計画を立て、アポイントメントをとる。(1)</p> <p>○観光案内所や駅などを訪問し、インタビューを行う。(2)</p> <p>○PRポスターにのせるキャッチコピーを決める。(2)</p> <p>P280 指導計画作成の留意事項(5)</p> <p>主体的に学習に取り組む態度③の姿を「秩父地域の発展を願い、PRポスターの制作などにより、観光客に秩父地域のよさを知らせようとしている。」という具体的な姿に捉え直して評価する。</p>	<p>・ポスターのレイアウトを決め、担当箇所を分担する。</p> <p>・自分たちのまとめているテーマに合った施設を訪問するようにする。</p> <p>・施設の方の要望 (PRしてほしいこと) も聞いておく。ポスターに生かせることがあれば取り入れる。</p> <p>・「ピラミッドチャート」を活用して決定していく。</p> <p>○態③ (発言・ワークシート)</p>
	<p>下段に、収集した情報を書き出す。(付箋を貼るなど) 中段には、下段の情報をいくつかにまとめた事を書く。上段には、中段から連想させる言葉やPRポスター作成の意図を意識したキャッチコピーを書く。</p>	
<p>表現</p>	<p>○PRポスターを作成し、観光案内所や駅などに貼らせてもらう。(4)</p> <p>P280 指導計画作成の留意事項(4)</p>	<p>・施設の方の要望 (PRしてほしいこと) でポスターに生かせることがあれば取り入れる。</p> <p>思考・判断・表現④の姿を「探究活動を通して学習してきたことを生かしているか」という具体的な学習の過程での姿に捉え直して見取り、評価する。</p> <p>○思・判・表④ (行動・ポスター)</p>
<p>表現</p>	<p>○これまでの学習を振り返る。(1)</p> <p><期待される生徒の振り返り></p> <p>秩父の歴史・文化・環境やそれらと祭りとの関連を調べることで、川越との比較を通して、次のような秩父の特徴がわかりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然が豊かで、災害に強いこと。 ・ 祭りなどの伝統文化を継承していること。 ・ 観光では、都心からアクセスしやすく、何度も満喫できる地域であること。 ・ ジオパークや秩父夜祭りなど世界的価値があるものがあること。 <p>これらの特徴をPRする際に、次のことに気を付けました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 見学やインタビューで、情報収集する時に、観点を決めること。 ・ 友人 (他人) の意見を尊重すること。今後は、この学習を通して分かったことや身に付けたことを基に、秩父地域の発展に貢献しようと思います。 	<p>学習をこれからの生活にどのように生かしていけるのかを考えることができるように、作成した掲示物やこれまでのワークシートを使いながら振り返るように工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達と自分のまとめたもの (スライドショーやポスター)、ワークシートを用いて、1年間の学習を振り返ることができるようにする。 ・ 学習したことをこれからの生活にどのように生かしていきたいかを考えていく。 <p>知識・技能③の姿を、信頼された評価とするために、評価する観点をあらかじめ指導する教師間で共有し、これまでに用いたワークシートや作成物を総合的に評価する。</p> <p>○知・技③ (発言・ワークシート)</p>

4-3 評価に基づく改善のポイント

総合的な学習の時間は、生徒が主体性を発揮しながら活動を展開することが望まれる。そのために教師は授業改善を繰り返し、ワークシートを工夫し、生徒が計画的に、かつ効率的に活動に取り組めるようにしていく必要がある。ワークシートは、活動の種別に用意し、すべてを一つのファイルにまとめることで、活動中や活動後に、探究的な学習過程が分かるように工夫する。

評価については、活動終了後の結果を重点的に評価しがちであるが、活動中のポイントで見取り、活動全体を通して、観点別評価規準に沿って評価していくことが重要である。

＜事例2＞ 「職業の選択と社会への貢献」を探究課題とし、身近な職業について考え、自己の職業観を育てていこうとする態度を身に付けることをねらった事例
 第2学年「仕事探究～『働くこと』を考える～」学習指導要領との関わり：職業や自己の将来に関する課題

4-1 単元の指導計画作成に当たっての工夫、配慮事項等

学校、事業所及び地域で「目指す生徒像」の共有を図り、単元を見通した職場体験活動を設定する。また、活動後に事業所のフィードバックを受け、次年度の年間指導計画を作成するようにする。年間指導計画を見直すうえで、PDCAサイクルを意識する。

4-2 単元の学習評価に当たっての工夫、配慮事項等

生徒の変容が見られるように意図的・計画的に振り返りカードに記述させるようにする。毎時間の学習カードも活用する。また、発表やプレゼンテーションに向けての相互評価や自己評価と多様な評価方法で、生徒自身が学びを調整したり、教師が指導の方向性を確認したり修正したりできるようにする。さらに、振り返りを充実させることで新たな学びにつなげる。

1 単元名 「仕事探究～『働くこと』を考える～」(第2学年 50時間)

2 単元の見どころ

身近にある職業に関する調査活動や職場体験活動、まとめ・表現活動「JOB EXPO」を通して、働くことが社会貢献・他者貢献につながることに気づき、働くことの意味について自己の適性と関連させながら考えるとともに、学んだことを今後の学習の在り方に生かすことができるようにする。

3 生徒の実態 (省略)

4 教材について (省略)

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①働くことが、自分のためのみならず、社会貢献・他者貢献につながることを理解している。 ②収集した情報や体験し感じたことや考えたことを適切な方法で関連付けている。 ③働くことについて考えることと自己の生き方との関わりについての理解は、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。	①身近な職業について、疑問や好奇心をもとに課題を発見し設定している。 ②身近な職業について、課題を解決するために必要な情報を多様な方法で収集している。 ③収集した情報を比較・分類することで、「働くことの意味」の理解につながるものとして整理しながら解決に向け考えている。 ④職業体験活動等で得た情報を、自身の考えを交えながら、写真やICTを活用して、まとめ・表現活動「JOB EXPO」でプレゼンテーションをしている。	①自身の活動の振り返りを通して自ら設定した課題の価値に気づき、自分の意思で探究的な活動に取り組もうとしている。 ②仲間や職業従事者など様々な人々に積極的に関わりながら、課題解決に協働して取り組もうとしている。 ③よりよい人生を歩むために、働くことに興味をもち、今後の学習や生活の在り方を積極的に改善しようとしている。

6 単元の指導計画と評価計画

※ 「課題」：課題の設定 「情報」：情報の収集 「整理」：整理・分析 「表現」：まとめ・表現

過程	○学習活動 ・生徒の思考	・指導上の留意点 ○評価 (評価方法)
課題	小単元1 「働く」とは何だろうか？ (6時間扱い) ○なぜ人は働くのか考える。(1) ・生活のために働いている。 ・その仕事が好きだから働いている。	・記述式の振り返りカードに記入させ、学習の軌跡を残す。 ・人が働く理由について思考を促す。 ・何を志向して仕事を選ぶのかを考えるように促す。 ・身近な職業について考えられるようにする。 ・調査方法を出し合わせる。 ・選択した方法でできるだけ多くの情報を集めるように促す。 ・グループごとに付箋等やウェビングマップ等を活用して決定していく。
情報	○何を志向して仕事を選ぶか考える。(1) ・自分の趣味や好きなことを仕事にしたい。 ○学区(通学路)にある店や事業所を調べる。(1) ・意外と知らない事業所がある。 ・インターネットで調べよう。 ・ご近所に聞いてみよう。	
整理	○学区の「事業所マップ」をつくる。(1) ・集めた情報からみんなに伝えたいものを選ぶ。	
表現	○事業所マップ発表会を行う。(2) ・なぜこの場所で働いているのだろうか。	
	可視化するために、思考ツールを活用し、分類したり関連付けしたりできるように工夫する。	
	主体的に学習に取り組む態度①の姿を、身近にある店や事業所は「何をしているのか」や「なぜこの地にあるのか」のように次への課題を自ら記しているという具体的な姿に捉え直して評価する。	
		○態① (学習カード)

<p>課題</p> <p>情報</p>	<p>小単元2 職場体験活動にチャレンジ(27時間扱い)</p> <p>○職場体験活動で学ぶ職業について、具体的な仕事内容を探究する。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんなことをしている職業なのだろうか。 <p>○調査活動(職業調べ)を行う。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットで調べよう。 ・図書室に資料があるかも知れない。 <p>○疑問点をまとめ、課題として設定するとともに、職場体験学習の計画を立てる。(1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所と「目指す生徒像」の共有する。 <p>○思・判・表①(学習カード)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な職業について、さらに探究できるようにする。 <p>○知・技②(行動・学習カード)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思考ツール(ウェビングマップやXチャート)を活用して、決定していく。
<p>整理</p> <p>表現</p>	<p>○職場体験学習を行う。(18)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな疑問を質問しよう。 <p>家庭学習を生かし、収集した情報や気付き、一日の振り返り等を、活動の記録に記載するように指導する。ここでは、ICTを活用し、一日の記録を学習プラットフォーム上にアップロードさせ、体験期間中に担任からコメントを返すことも考えられる。</p>	<p>○能②(職場体験日記・インタビューカード)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業従事者にインタビュー等の調査活動を行うように促す。 ・活動記録に、感想や疑問点、気付き等を記載するように促す。
<p>整理</p> <p>表現</p>	<p>○調査活動によって得た情報をもとに、伝えたいことに即して分類する。(2)</p> <p>○調査内容をまとめ、ポスターセッションを行う。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献のために仕事をしている。 <p>○解決できなかった課題や新たな疑問を、「職場体験活動時のインタビュー項目」としてまとめる。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜこの地に事業所を構えているのだろうか。 	<p>○思・判・表②(作品・学習カード)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手に伝わるようにまとめるように促す。 ・一連の活動を通して、新たに疑問に思ったことを考えるように促す。 ・インタビューを実施する準備をするように促す。
<p>整理</p> <p>表現</p>	<p>小単元3 「JOB EXPO」を開催しよう(17時間扱い)</p> <p>○職場体験学習で感じたことなどを「JOB EXPO」発表用に多様な方法で整理する。(6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな方法であれば分かりやすく伝えることができるだろうか。 <p>P280 指導計画作成の留意事項(3)</p> <p>外国語科での学習を生かし、相手意識をもった発表をすることができるように指導する。</p>	<p>生徒自身が考えた方法でまとめを行うことができるように工夫する。(新聞、ポスター、ハンドブック、ICT・プレゼンテーションソフト他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「JOB EXPO」を学校公開日に設定することで、学区内の小学生や保護者、職場体験活動でお世話になった方々を意識した発表に促す。
<p>整理</p> <p>表現</p>	<p>○「JOB EXPO」に向けてまとめたものを、学年で共有する。(6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうすればうまく伝えることができるだろうか。 <p>プレゼンテーションに向けて、生徒同士での相互評価や教師からのフィードバックを参考に、プレゼンテーションの修正を行うことができるように工夫する。</p> <p>○「JOB EXPO」を開催する。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働くことは、他者貢献や社会貢献につながっている。 ・お世話になった方々に気持ちを込めて伝えたい。 	<p>○思・判・表③(プレゼンテーション)</p> <p>○知・技①(まとめ・発言)</p> <p>○思・判・表④(プレゼンテーション)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業ブースを作り、準備した資料を補助的に活用してプレゼンテーションをするように促す。
<p>整理</p> <p>表現</p>	<p>○職場体験活動でお世話になった方々へ感謝の手紙と発表の内容を送る。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感謝の気持ちや自己の成長を伝えたい。 <p>○単元の活動を振り返る。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからの自分の人生に生かしていきたい。 <p>職場体験活動を通して学習したことをこれからの生活にどう生かしていくか考えることができるように工夫する。</p> <p>職場体験活動後の事業所からの評価をうけ、次年度の年間指導計画や単元計画の改善に生かすことができるように工夫する。</p>	<p>○能③(お礼の手紙)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの活動と今後の学習や生活の在り方との関連を捉えながら手紙を書くように促す。 <p>○知・技③(学習カード)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分事として考えることができるようにする。 ・記述式の振り返りカードに記入させ、学習の軌跡を残す。 ・事業所からのフィードバックを生かし、次年度の計画に生かしていく。 <p>思考・判断・表現④の姿を「相手に応じて、資料を活用して効果的に表現している」という具体的な姿に捉え直して評価する。</p>

4-3 評価に基づく改善のポイント

P D C A サイクルに基づく指導・評価計画の作成に努めることが重要である。まず、学習指導要領等を参考に、生徒や地域の実態を踏まえて、総合的な学習の時間の年間指導計画や単元計画を作成する。次に生徒の学習状況を評価し、その結果を、生徒の学習、教師による指導の改善及び学校全体としての計画等に生かす。また、社会に開かれた教育課程の視点から、地域や事業所と「目指す生徒像」を共有し、体験活動後の事業所からの評価をうけ、次年度の年間指導計画や単元計画の改善に生かすことができるようにする。

第4 本時の学習指導（学習指導案）と評価及び改善

1 本時の学習指導と評価及び改善の考え方

1-1 本時の学習活動について

総合的な学習の時間においては、「学習過程を探究的にすること」、「他者と協働して主体的に取り組む学習活動にすること」が大切である。以下にそれぞれの過程における学習活動のイメージとそこで行われる教師の学習指導のポイントを記す。

課題の設定

生徒自らが課題をもつことを待つのではなく、事前に生徒の発達や興味・関心を適切に把握し、これまでの生徒の考えとの「ずれ」や「隔たり」を感じさせたり、対象への「憧れ」や「可能性」を感じさせたりする工夫をするなど、教師が意図的な働きかけをすることが重要である。

情報の収集

課題の解決のために、どのような情報を収集するのか、どのような方法で収集するのか、どのようにして蓄積するのかなど、目的を明確にした情報収集を自覚的に行うようにする。体験活動を通して得られる感覚的な情報の収集の際にも活動自体の目的を明確にし、そこで獲得される情報を意識的に収集し、適切な方法で蓄積することが求められる。また、生徒が各教科等で身に付けた知識や技能を発揮することでより多くの情報、確かな情報を収集することができるようにすることが大切である。

整理・分析

収集した多様な情報を整理したり分析したりして、思考する活動へと高めていくことが大切である。生徒は収集した情報を比較したり、分類したり、関連付けたりして情報内の整理を行う。その際、生徒自身が情報を吟味することに配慮したい。一旦収集した情報を整理する段階で吟味することの重要性について考えることができるようにする。また、どのような方法で情報の整理や分析を行うのか決定できるようにする。情報を整理・分析することを意識的に行うために「考えるための技法」を意識し、思考を可視化する「思考ツール」を活用していくようにする。

まとめ・表現

情報の整理・分析を行った後、それを相手意識や目的意識を明確にして他者に伝えたり、自分自身の考えとしてまとめたりする学習活動を行う。その際、まとめたり、表現したりすることで情報が再構成され、自分自身の考えや新たな課題を自覚することにつながることに配慮する。明確になった自分自身の考えや新たな課題について、交流することができるような学習活動の設定が望まれる。まとめたり、表現したりする際には、伝えるための具体的な方法を身に付け、目的に応じて選択して使えることができるようにする。

なお、協働的に取り組む学習活動においては、「多様な情報を活用して協働的に学ぶ」、「異なる視点から考え協働的に学ぶ」、「力を合わせたり交流したりして協働的に学ぶ」、「主体的かつ協働的に学ぶ」生徒の姿を想定しながら、各過程において異なる多様な他者と協働して主体的に課題を解決しようとする学習活動を位置付けることが重要である。

1-2 本時の学習評価について

探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力を基にしながら、具体的な生徒の姿を想定し、期待する資質・能力が発揮されているかどうかを把握することができるようにすることが大切である。具体的な生徒の姿を見取ることができるような評価規準を設定し、評価方法や評価場面を適切に位置付けることが必要である。

評価方法⇒成果物の出来栄で生徒を評価するのではなく、その成果物から生徒がどのように探究の過程を通して学んだのかを見取ることが大切である。

- ・発表やプレゼンテーションなどの表現による評価 ・話し合い、学習や活動の状況などの観察による評価
- ・レポート、ワークシート、ノート、作文、論文、絵などの制作物による評価
- ・学習活動の過程や成果などの記録や作品を計画的に集積したポートフォリオを活用した評価
- ・評価カードや学習記録などによる生徒の自己評価や相互評価 ・教師や地域の人々等による他者評価 など

評価場面

学習活動の終末だけでなく、事前や途中で適切に位置付けて実施する。学習活動前の生徒の実態の把握、学習活動中の生徒の学習状況の把握と改善、学習活動終末の生徒の学習状況の把握という各過程に位置付けるようにする。

1-3 本時の学習活動の評価・改善について

本時の評価結果を基に、指導を改善し、更なる充実を図るために本時における生徒の姿を記録し、次時の指導へと生かすことができるようにする。また、生徒に身に付けさせたい資質・能力が身に付いていない場合には指導計画を適宜修正していくなど、柔軟な対応が求められる。修正した指導計画は、次年度に向けて年間指導計画を作成する際に活用していくようにする。

2 学習指導案の事例

＜事例1＞ 「地域に暮らす人々の生活からみた未来のまちづくり」を探究課題とし、地域の特色や課題を理解し、どのように生徒自身が関わっていくのかを考えることをねらった事例
第3学年「三ヶ島の未来と自分」学習指導要領との関わり：横断的・総合的な課題

2-1 本時の指導計画作成に当たっての工夫、配慮事項等

すべての生徒が課題の解決に取り組めるよう3～4人のグループで活動を進めた。本時は学級を分解し、様々なテーマの発表が散らばるように工夫した。単に発表で終わらないよう、前時に行った表現活動を高める工夫をし、教師がファシリテーターとなり地域の方と対話を進め論議を深めていく。

2-2 本時の学習評価に当たっての工夫、配慮事項等

生徒が学びの過程において変容していく様子を見取ることができるようにする。そのためには自分たちでまとめたものを口頭発表し、地域の方々と対話し、多様な意見を比較・関連させて、他者や社会との関わりを踏まえて改善策を見いだそうと思考を深めているかを評価していく。

1 単元名 地域の将来を見つめ社会参画につなげる「三ヶ島の未来と自分」(第3学年35時間)

2 単元の見どころ

生徒が暮らすまちの課題に関する探究的な学習を通して、地域で暮らすことの意味と自分自身の生き方との関わりに気づき、過ごしやすいまちにするために仲間と協力しながら解決策を考えるとともに、学習してきたことをこれからの社会参画に生かすことができるようにする。

3 生徒の実態 (省略)

4 教材について

旧村地区であるこの地域は3世代同居が多く、高齢化率も高い。生産年齢人口は地域外へ出ていってしまうことも多いため、地域の歴史的な背景やよさを知り、身の回りの問題点に気付くことは学習の大事なポイントである。

そこで中学校3年間を通して系統性があり、教科で培った力を総合的に発揮することのできるプロジェクト型の学習を進めていけるよう計画を立てた。具体的には<1年次…「三ヶ島の歴史と自分」><2年次…「三ヶ島の現在と自分」><3年次…「三ヶ島の未来と自分」>である。この学習では「自分自身」が主人公としてまちとつながる。3年生では個人で課題を見付け、特に、まちづくり、インフラ整備、福祉、子育てに焦点を当て、現状を見つめ課題を分析した。3年間を通して自分たちが暮らすまちを「過去～現在～未来」と見つめていく学習によって、生徒一人一人が切実性をもって、自分事としてとらえるきっかけをつくることのできるようにした。生徒たちが考えた「20年後の三ヶ島に向けて未来構想!」を地域の方々と交流し、対話でつなげていく学習となるよう仕組んだ。また学習の振り返りをしながら自己評価の積み重ねを大切にしていけるよう<「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」>が発展的にPDCAサイクルで繰り返せるものとした。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 地域の課題解決に向けて人や組織と目的を共有して取り組むことが必要であることを理解している。 ② 地域の課題の解決に向けて考えつく調査を、対象に応じた適切な方法で実施している。 ③ 地域の課題と自分たちの生活との関わりについての理解は、探究的な学習の成果と気付いている。	① 地域の課題から切実な「問い」をおこし、その解決に向けて自分でできることを考えている。 ② 地域の課題について必要な情報を、目的に応じて選択して収集している。 ③ 得た情報を選択したり、比較したり、関係付けたりしながら解決手段を考えている。 ④ 身近な人や地域の人々に、学習課題についての考えをまとめ、伝えられるように工夫して表現している。	① 地域性に気づき、文化や伝統、様々な特色を受け継いで、故郷わがまちへの誇りをもち、自分の意志で探究的な活動に取り組もうとしている。 ② 仲間や地域の人々に積極的に関わりながら、自分たちの地域の特色について協働して調べようとしている。 ③ 課題解決の状況を振り返り、自分自身の生活につなげ、地域と協働しながら自分のできることを見いだしている。

6 単元の指導計画と評価計画

※ 「課題」：課題の設定 「情報」：情報の収集 「整理」：整理・分析 「表現」：まとめ・表現

過程	○学習活動 ・生徒の思考	・指導上の留意点 ○評価（評価方法）
課題整理情報	<p>小单元1 わたしたちのまちの現実と課題を考えよう（8）</p> <p>○テーマは三ヶ島の「未来」に設定し、生徒の考えから課題を見出し、解決のためのイメージマップをつくる。（4）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【考察の視点】 <目的>と（目標）を示す！ <大切な人やまちが住みやすくなるように> 明確なゴール（改善の提案書づくり）</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・理想と現実のギャップが課題なのではないか？ ・テーマとして考えられることを各自で出していこう。 ・現実を知るには地域の人の声が必要なのではないか？ <p>○課題を決定し、自分たちの暮らすまちについて調査を開始する。（4）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【調査の視点】 ①現状を実態調査し、把握していく。 ②課題解決に向けて先例や他の例を探す。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・課題にそってまちの人にインタビューしてみるとぐっと切実性が湧いてきた。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>思考・判断・表現①②の姿を「調べて生まれた疑問から切実な問いになっているか」「目的に応じた具体的な情報収集の方法を獲得しているか」という具体的な姿に捉え直して評価する。</p> </div>	<p>・事前アンケートをとる。 三ヶ島はどんな「まち」か？ 身近な人にインタビュー</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>事前アンケートの言葉拾い（付箋に示す） イメージマップ（思考の拡張） ランキング（アンケート回答数の序列化）</p> </div> <p>○知・技① ①（聞き取り・ワークシート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題は「自然」「子育て」「まちづくり」「食文化」「防災」「交通」に大まかに分けた。 ・調査後に情報を整理・分析しやすいように、調査項目を分類し揃えるようにする。気づいたことはメモをする習慣をつけるようにする。 <p>○思・判・表①②（聞き取り・ワークシート）</p>
課題情報	<p>小单元2 まちづくりについて考えよう（9）</p> <p>○修学旅行で訪れる「京都」のまちから自分たちの課題にそったヒントを得てこよう。（2）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【調査の視点】 ①テーマをもって街歩きをする。 ②あとで何の写真であるかわかるようにメモを取る。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・その街の「文化」が関係してくるという話を聞いた。 ・長く続いた歴史が関係あるのか？ <p>○「京都」で集めた情報を整理して共有し、課題解決の材料とする。（4）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【意見交換の視点】 ①写真で見比べてみる。 ②情報交換には対話的な視点が大切である。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境と街並みの共存について知れた。 ・「文化」って何だろう？と新たな疑問が湧いた。 <p>○まちの専門家に話を聞こう。（3）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【体験学習の視点】（ゲストティーチャー） ①自分のこれまでの印象との不一致を確認。 ②体験を経験につなげ論理的思考に挑戦する。</p> </div> <p>講座：子育て（地域のこども園） 福祉・高齢化（社会福祉協議会） 文化（まちづくりセンター） まちづくり（市役所都市計画課）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その道で頑張る人は奥が深い。視点が広がった。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【カリキュラムマネジメントの視点】 ・修学旅行そのものに「総合的な学習の時間」を位置付け、学びの積み重ねとする。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・気になった場所の写真を取り集めるよう声をかける。 ・写真の撮り方についてはモラル教室を開いておくとよい。 <p>○思・判・表②（聞き取り・ワークシート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集めてきた情報を分類するよう用紙や付箋を用意する。 ・写真を見ながら、自分たちのまちと置き換えられるよう促す。 ・生徒の思考に働きかけるようまとめたものを視覚化する。 <p>○知・技②（聞き取り・ワークシート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちの専門家に課題解決の助言を依頼しておく。 <p>○態②（聞き取り・ワークシート）</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>主体的に学習に取り組む態度②の姿を「お客様の話を聞きながらメモし、調査の視点を得たか」という具体的な姿に捉え直して評価する。</p> </div>

過程	○学習活動 ・ 生徒の思考	・指導上の留意点 ○評価 (評価方法)
情報 表現	<p>小单元3 自分たちができることを提言しよう。(18)</p> <p>○テーマを基に課題解決の方法を考えていこう。(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足りないところや新たな課題が見えてきた。 ・「願い」を現実にするのは難しいかな、でもそれが「未来像」につながるのだ。 ・絵空事でもいいのだろう。絵空事だとしたら、現実性を加味してみればいいのではないかな？ <p>※教科横断的な視点として、国語・英語の論理的な文章、数学の数的処理、社会科のグラフに表現する技能、美術のイラストに表現する技能、技術のグラフィック処理、保健体育の体育理論等、各教科で学んだ力が総合的に生かされるまとめとなることを教師が理解して進める。</p> <p>P280 指導計画作成の留意事項(3)</p> <p>○これまでの学習内容を踏まえ、いよいよ「提言書」を完成させよう。(8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表テーマの工夫もプレゼンには必要だろう。 ・目を引くようなキャッチフレーズやイラストなどいいのではないかな？ ・調べてわかった課題はどんどん書いていくと整理できる。 ・小さな紙を使う、イラスト、写真と工夫はいろいろできる。 <p>○事前学習発表会を実施して表現活動の質を高めよう。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉に説得力を持たせるには「裏付け」も必要かな？ ・学級で実施したから受け入れてもらえたが、本番は学年でやるから発表メモは小分けにして分担をしておこう。 ・発表した自分たちがいちばん理解した気がする。 ・意見を聞いて修正することができた。 <p>○地域の方々を招いて「提言書」の発表会をしよう。(2) 本時(2/2時)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やっぱり一方向的な発表ではなく朝鑑賞のような双方向性があることで学習が深まった。 ・市の関係者に切実性が伝わり具現化につながるのではという期待が生まれた。 ・自分たちの声がきちんと大人に届き、認められた。 <p>P280 指導計画作成の留意事項(4)</p> <p>○単元の活動を振り返る。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちは私たちのものでもあるという自覚が芽生えた。 ・人やまちの役に立てた感じがする。 	<p>・情報を整理して付箋に記し、項目別に分ける。</p> <p>・ゲストティーチャーを呼んで「プロ」の話や説明を聞いたことで生徒に課題解決の「切実性」が芽生える。教師が指導を進めるに際し、恣意的な方向にならないよう注視することが大切である。</p> <p>○知・技③ (聞き取り・ワークシート)</p> <p>【カリキュラムマネジメントの視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の特徴を生かした取組とするため、「朝鑑賞(対話型芸術鑑賞)」を通して思考力・表現力を培うようにする。 <p>※対話型芸術鑑賞とは、教師と生徒、生徒と生徒が美術作品を媒介に対話をする活動である。</p> <p>※<助言の例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1行で宣伝文句にしてみよう。 ・見に来る人が「見たいくなる」仕掛けを考えてみよう。 ・「キーワード」「対象者」「現実性」のどれかひとつを強調してみたらどうだろう。 <p>○思・判・表③ (聞き取り・ワークシート)</p> <p>注：【GIGAスクール構想との関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひとり1台タブレットを使って調査、収集する学習は「提言書」の完成に向け、デジタルポートフォリオをグループで共有し、よりよいものに仕上げていくのに有効である。 <p>・まずテーマに関する「今のまちの課題」を出し合う。</p> <p>・板書の共通化(タイトルと本時の流れ進行)</p> <p>○思・判・表④ (聞き取り・ワークシート)</p> <p>・教師のファシリテーション(司会進行案内)</p> <p>※特に地域の方との掛け合い、生徒との対話の場面を意図的に作っていく。</p> <p>○思・判・表④ (聞き取り・ワークシート)</p> <p>○態③ (聞き取り・ワークシート)</p> <p>主体的に学習に取り組む態度③の姿を「ワークシートに記入した文章表現」等から具体的に捉え直して評価する。</p>

7 本時の学習指導 (本時32、33/35時)

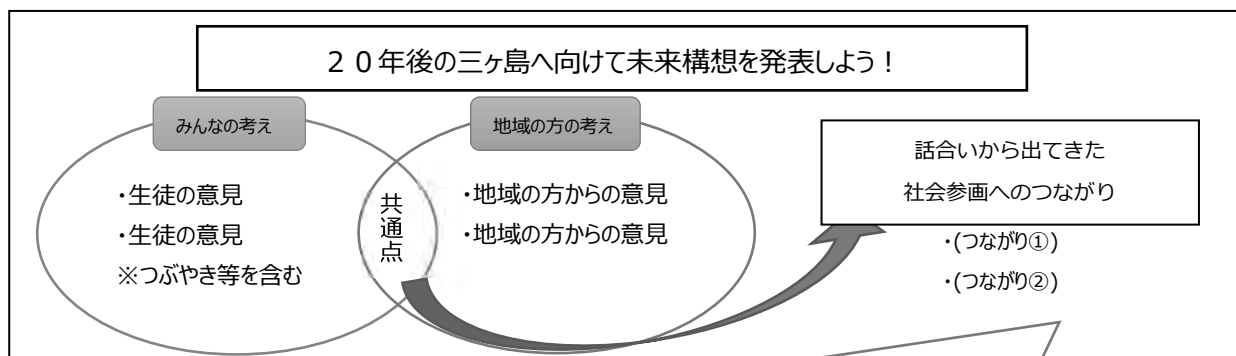
(1) 目標

自分たちが見いだした課題について、調べ考えまとめた内容を基に、地域の方々に未来構想を提言したり、対話したりする活動を通して、学びを自分ごとにして工夫して表現し、伝えている。

(2) 展開 (100分)

学習活動	・指導上の留意点 ○評価 (評価方法)
1 前時の確認をする。	<p>・これまで進めてきた学習の内容の軸について市の動画を視聴しイメージを膨らませる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「20～30年後の三ヶ島」の未来像を見据え、自分たちの願いを込めたまちの課題解決策を地域の大人に評価してもらう。</p> </div>
2 本時のめあてを確認する。	<p>・本時に進めていく内容を共通理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>20年後の三ヶ島に向けて未来構想を発表しよう！</p> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>P280 指導計画作成の留意事項(3)</p> </div>
3 学習の流れを知り見通しをもつ。	<p>・学習の流れを提示し、発表の方法や視点を明らかにし、特に対話を重視しながら教師がファシリテーションを行う。</p> <p>・発表のポイントに強弱をつけ、主張すべきところを最終確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>意見や立場の違いを互いに受け入れ、対話をすることで新しい考えや未来を創り出していけるという思いをもたせるようにする。</p> </div>
<p>4 各グループの発表を行い(6グループによる発表)、発表毎に協議を行う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>思考・判断・表現④の姿を「内容が事実に基づいているか。未来像が根拠に基づいたものになっているか」という具体的な姿から考えをまとめ、工夫した表現になっているか評価する。</p> </div>	<p>【プレゼンの仕掛け】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発表は、提案書にもとづき「①言葉の効果が強い題名とする。②対象を明らかにする。③どんな課題を解決したいのか、浮き彫りにする。④具体的にどのように解決していくのか言葉にし、用意したイメージ図で示す。⑤自分たちの案の問題点を明らかにする」の視点を踏まえ行う。 ・ 掲示物等、視覚的な効果を促す仕掛けを工夫しておく。 ・ 質疑や意見交換を活発に行わせる。その際、教師は比較、関係付けをしたり、対話が進むよう促しの言葉を付け加えたりして、深める。 ・ 話し合いを深め、多面的・多角的に広がっていくよう生徒の出した意見を否定せず、私見を入れずに板書化し、進めていく。 ・ 発表毎に自分たちが調べて積み重ねてまとめた成果物を地域の方々に吟味してもらい端的に感想・意見をもらう。 ・ その際、15歳の視点で捉えた事柄が社会参画につながるようになるのか、本音の論議につながるよう、教師は対話のコーディネートを行う。 <p>○地域の方々にこれまで自分たちが見出した学習課題について調べ考えまとめた内容を、工夫して表現している。 思・判・表④ (発言・行動・ワークシート)</p>
5 地域の方とディスカッションを行う。	<p><実際のディスカッション場面></p> <p>生徒「今、生涯スポーツとどう関わり、健康で文化的な生活を営むか課題とされています。しかし、まちには身体を動かせる屋外スペースがありません。公園も運動場もありません。スペースが生まれれば高齢者と中学生が交流を持つことも可能です。ただ、考えてはみたものの具体的に実現する方法がわかりません。」</p> <p>地域「皆さんの具体策に知恵を貸してもらいました。高齢化と健康保持の課題はセットです。皆さんの提案をベースにさらに論議を深めていきましょう。行政とも相談し、よりよい方法について具現化していく手立てを考えていきましょう。」</p>
6 本時の学習のまとめと振り返りをする。	<p>・自分たちが進めてきた学習の成果を地域の方との意見交換を通し、吟味したことで課題意識が高まり、切実性が芽生えた。さらに世代を超えたまちづくりの担い手として、市民社会の一員としての自覚をもてるきっかけとしていくことができるようにする。</p>

8 板書計画



<板書を作成する際のポイント>

地域の方とのディスカッションの際に、生徒の意見と地域の方の意見をそれぞれベン図に教師が整理し、共通点を見いだす。この共通点が、生徒と地域の方との対話を活性化させる視点となる。

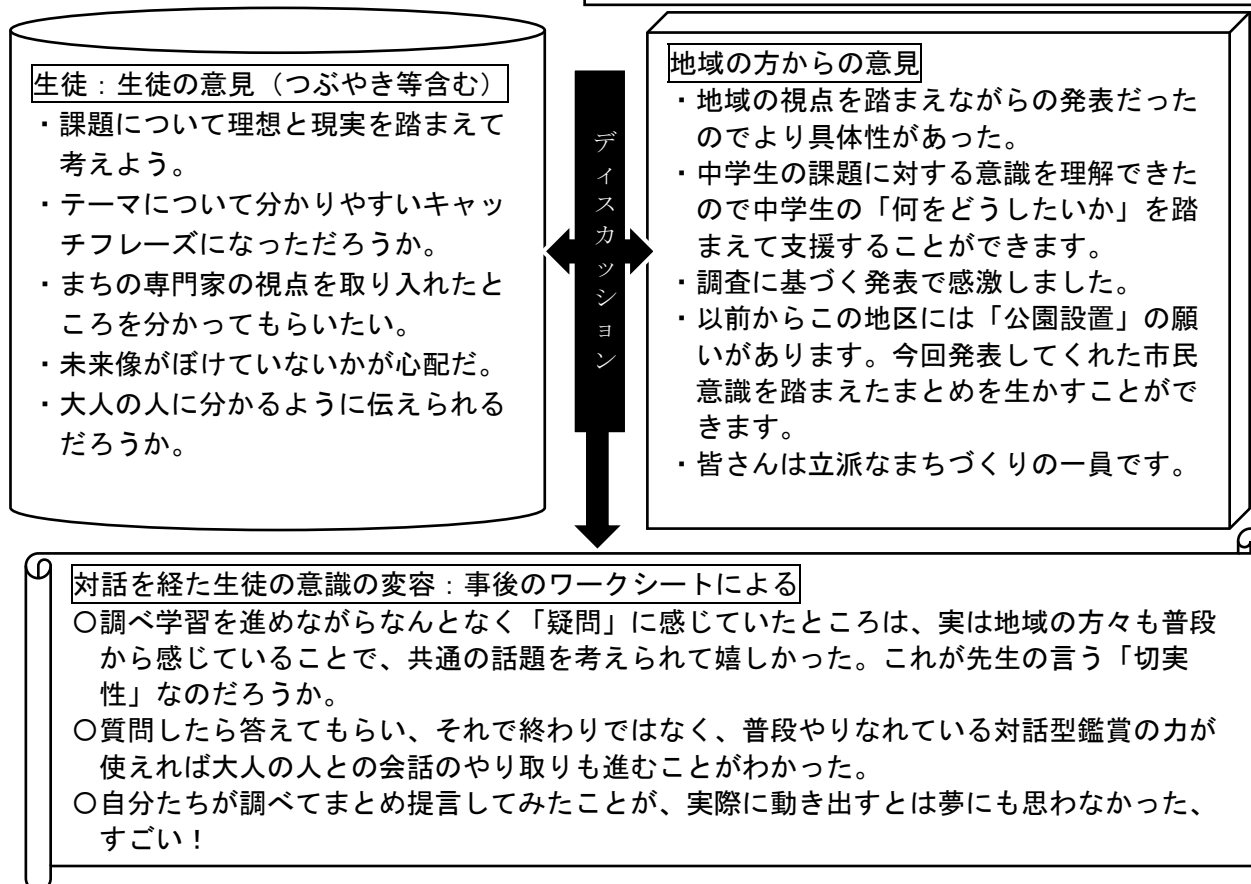
2-3 本時における指導と評価の実際

2-3-1 対話による生徒の変容の見取り

○着目するポイント

教師は、他者と協働しながら課題を解決し、新しい価値を創造し、よりよい社会を創る視点から、一人一人の様子を見取る。その際、つぶやき、メモなどの走り書きにも着目する。

「主体的に学習に取り組む態度」では、行動観察に加え、対話の時に活用するワークシートをていねいに観察し、生徒のメモ・走り書きをして見取る。



2-3-2 評価に基づく改善のポイント

目標を実現するにふさわしい探究課題であるか、まず生徒自身が「まちづくりをしていくのは自分」であるという自覚を促し活動することが望まれる。そのため、毎時間の活動の様子やワークシートから探究的な学習がどのように進み、調べたことや話し合ったことによって、どれだけ生徒の学びが変容しているか、教師が適切に見取っていく必要がある。それには、教師も学びのゴールがどこにあるのか、想像力を凝らし、聞き取り等を行いながら進めていくことが肝要である。その際、小單元ごとの授業での変容を端的に評価の積み重ねとして捉えられるようにする。

＜事例2＞ 「国際社会における これからの日本の在り方、自分の在り方」を探究課題とし、修学旅行で訪れる京都の人、もの、ことを題材に探究を行い、学んだことを自分自身と結び付けて、自己の生き方を考えることをねらった事例 第3学年「日本人として生きるとは？」学習指導要領との関わり：横断的・総合的な課題

2-1 本時の指導計画作成に当たっての工夫、配慮事項等

グループテーマと個人テーマとの関連を考察するための思考ツールを用いて、思考の過程を視覚化し、研究の位置付けが見えやすくなるようにした。個人の研究がグループの研究をよいものにするためには必要不可欠であることを意識できるようにし、意欲的な学習活動を促した。

2-2 本時の評価に当たっての工夫、配慮事項等

思考ツールを用いて頭の中で考えていたことを文字として書き出し、整理・分析し、個人で考えたり振り返ったりする時間とグループで話し合う時間を分けることによって、適切な評価ができるようにした。

1 単元名 「日本人として生きるとは？」(第3学年 40時間)

2 単元の目標

京都の人、もの、ことを題材に、伝統文化、生活文化、共生社会、歴史の分野に関する調査・体験活動を通して、人々の生活や生き方と日本らしさのつながりについて理解し、国際社会における日本人としての生き方について考えるとともに、自分がどのように生きていくかということについて考えをもつことができるようにする。

3 生徒の実態 (省略)

4 教材について

本単元は、修学旅行と関連付けて、多くの外国人が日本を感じる京都を題材として扱い、世界中の日本に目を向け、自分の生き方を考えることにつなげていく。実践の鍵として、体験活動の充実があげられる。現地の方に学習のねらい等を説明し、その趣旨を理解していただくことが重要である。インターネットや書籍を用いた調べ学習を受けて、自分達で調べただけでは分からないこと、調べたことによってより詳しく知りたいと感じたことを、事前に連絡して回答を得る。事前連絡により、生徒のテーマを知ってもらい、より充実した体験活動につながることを期待できる。

自己の生き方を考えることにつながる視点としては、「人々の生き方を見つめる視点」「自己の生き方を見つめる視点」「自己の生き方に生かす視点」があると考え。グループテーマと個人テーマの設定を行い、事前の調べ学習、担当者への事前質問、体験活動等を通して人々の生き方を見つめる。体験で終わりにすることなく、学習を振り返る中で自己の生き方を見つめ、探究課題に迫る考察、まとめを通して、国際社会に生きる日本人としての自覚と誇りを養うとともに、日本人としてよりよく生きていくために、何をどのように生かしていくかについて考える。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①日本古来の伝統・文化が根付いた人々の生活や生き方が、京都の日本らしさを作り上げていることを理解している。</p> <p>②インターネットや書籍を用いて必要な情報を手際よく収集したり、相手に応じた適切な対応で質問したりしている。</p> <p>③京都の人、もの、ことについて探究し、京都で生きる人の思いや生き方について考えたことが、今後の自身の生き方にも関わってくることに気付いている。</p>	<p>①自らの興味・関心に基づいてテーマを設定し、解決に向けた見通しをもっている。</p> <p>②テーマに関連のある情報を幅広く効率的に収集している。</p> <p>③収集、蓄積した情報を分類して整理したり、系統的・体系的に並べ替えて関係性を見いだしたり、取捨選択したりして、整理・分析している。</p> <p>④自身の調べたこと、考えたことを、結論に対する根拠や背景を明らかにして、分かりやすくまとめている。</p>	<p>①発表会等を通して、自ら設定したテーマの価値に気付き、活動に意欲的・主体的に取り組んでいる。</p> <p>②友達の意見や、京都の担当者からのアドバイスを受けて、自他の考えのよさを生かしながら課題解決に向けて取り組んでいる。</p> <p>③人や社会との関わりや国際的な視点から日本文化をとらえ、今後の文化の在り方を考えたり、自己の生き方と結び付けて考えたりしている。</p>

6 単元の指導計画と評価計画（省略）

7 本時の学習指導（本時12 / 40時）

(1) 目標

「ロジックツリー」を用いた話し合い活動を通して、個人テーマをどのように練り直せばよいか、グループテーマにどのように迫っていくかについて、情報を整理・分析している。

(2) 展開

学習活動	・指導上の留意点 ○評価（評価方法）	時間
1 前時までの学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでにグループの担当分野や体験学習の内容から、ウェビングマップを用いて発想を広げ、グループテーマと個人テーマを決定し、個人での調査を受けて、前時にグループの中で発表会を行っている。 ・これまでの学習の中で印象的だった場面を挙げ、本時の学習への意欲を喚起する。 	3
2 本時の課題を知る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>グループ内発表会を受けて、グループテーマに迫る道を探ろう。</p> </div>	2
3 グループテーマにどのように迫るかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・「ロジックツリー」にグループテーマの要素を分解して記入するように促す。 ・グループテーマに迫るための個人テーマの設定ができていないか、テーマの解決に向けて個人テーマの漏れや重なりはないか等について考えるようにする。 ・ワークシートに印刷された「ロジックツリー」には枠はあるが、枠を書き足しても構わないことを伝える。 ・個人で考える時間を確保し、個人の考えをワークシートに書いた上で、グループでの話し合いを行う。 ・テーマが大きくなかなか記入が進まない生徒には、自身の個人テーマの要素を分解するように促す等、適宜支援する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: fit-content; margin: 10px auto; padding: 5px;"> <p>P280 指導計画作成の留意事項(2)</p> </div>	10
4 グループで「ロジックツリー」に基づいて話し合い、話し合いの様子や内容について発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の考えた「ロジックツリー」をもとに話し合いを行い、グループとしての「ロジックツリー」を完成させる。 ・付箋紙を準備しておき、自由に活用できるようにする。 ・ウェビングマップに書かれている要素と、「ロジックツリー」にあがってきた要素を比較・分類したり、関連付けたりする際には、色ペンなどを用いて視覚的に分かりやすく工夫するように助言する。 ・どのような話し合いを行ったか、どのようにグループテーマに迫っていくことになったか、何か気付いたことはあるか等について発表する。 <p>○収集した情報を分類して整理したり、系統的・体系的に並べ替えて関係性を見いだしたりして、整理・分析している。思・判・表③（発言、ワークシート）</p> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto;"> <p>思考・判断・表現③の姿を、思考ツールを活用して、論理的に思考できている点等を取り上げ、視点を定めて多様な情報を分析しているという具体的な姿に捉え直して評価する。</p> </div>	30
5 本時のまとめと振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・次時では、本時のグループテーマの整理・分析を受けて、京都の担当者への研究計画書の提示、打ち合わせ内容や質問について考えることを伝える。 	5
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>〈期待される生徒の振り返り〉 発表会の内容を「ロジックツリー」で整理したことで、既に分かっていること、これから調べていくことがはっきりして、筋道を立てて考えることができ、研究の方向性が見えてきた。また、ウェビングマップと比較することや、話し合いをすることで、自分だけでは気付かなかった点に気付くことができたのがよかった。</p> </div>		

8 板書計画

課題 グループ内発表会を受けて、グループテーマに迫る道を探ろう。

1班	2班	3班
各グループのウェビングマップ		
7班	8班	9班

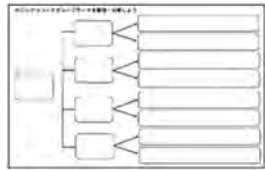
グループテーマの先に「日本人として生きるとは？」

ウェビングマップ ← **ロジックツリー**

発想を広げる ↔ 関係性 全体的にみる
体系的に捉える

- ・個人テーマの位置付け
- ・グループとしての全体像

◎内容に漏れや重なりはないか？
◎グループテーマに迫るための個人テーマとなっているか？

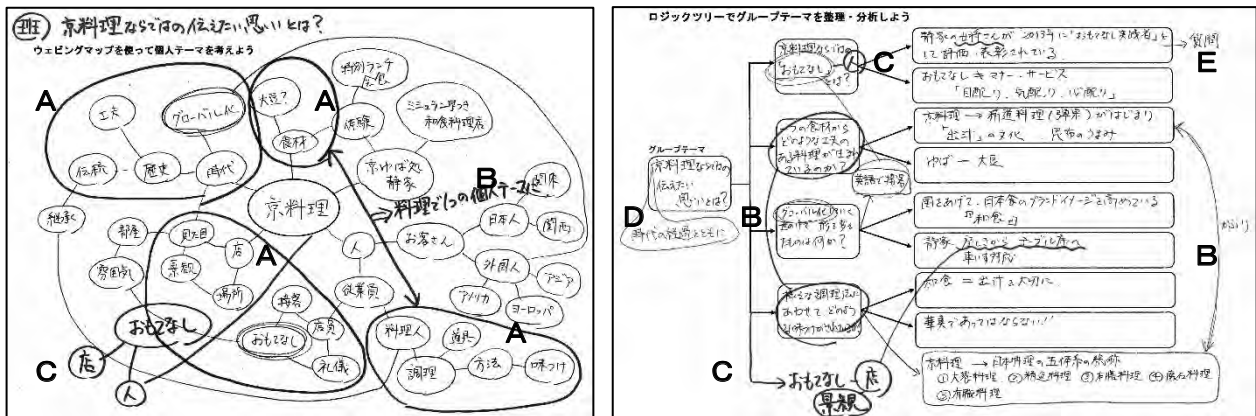


2-3 本時における指導と評価の実際

2-3-1 今回使用した思考ツール

「ウェビングマップ」は幅広く多様なアイディアを生みだしたり、発想を広げたりする際に有用な思考ツールであるのに対し、「ロジックツリー」は要素間の関係を明らかにして、漏れや重なりを防ぎながら体系的に全体を捉えるのに有用な思考ツールである。

2-3-2 話し合いでの発言、ワークシートの見取り



上図はあるグループの「ウェビングマップ」「ロジックツリー」の記述である。このグループは「京料理」をテーマに研究を進めている。「ウェビングマップ」を用いて様々な語句をつなげて考えを広げ、個人テーマを「グローバル化」「食材」「おもてなし」「調理法」の4つに設定していた【A】。

本時では、グループテーマと個人テーマとの関係性について、活発な意見交換がなされた。「ロジックツリー」を用いて個々のテーマを見直した際、「食材」と「調理法」の内容に重なりがあることに気づき、テーマを統合させて1人が担当することにした【B】、探究課題に迫るために要点となると判断したテーマである「おもてなし」を「人」に関することと「店」に関することで2人に分けて、詳しく研究することにした【C】する等の修正を行った。また、話し合いを受けてグループテーマの文言に加筆し、グループで迫っていきたいものを明確にする【D】様子が見て取れた。さらに、調べても分からなかった点を整理【E】して、次時以降につながる話し合いも行っていた。このグループにおいては、論理的に思考することができていることがうかがえる。

なお、本時は1回目の探究のプロセスにおける「整理・分析」の場面である。単元の評価規準における思考・判断・表現③を形成的に評価し、生徒個人や学級へとフィードバックして、視点を定めて多様な情報を分析する力の育成を意図した時間として設定した。

2-3-3 評価に基づく改善のポイント

総合的な学習の時間においては、グループ活動において教師の予想を超えた課題解決に向けたよい活動が展開されることがある。その際、誰のどのような働きかけがその活動を促したのかを、よく観察したり、その活動を行った生徒自身に振り返らせたりして、他のグループ等にも広める働きかけを行いたい。これは、育成を目指す資質・能力を明確にし、生徒と共有することになるとともに、努力を要する生徒への支援ともなる。

＜事例3＞「将来につながるまちづくり」を探究課題とし、多くの人を訪れる東京と我が町を比較し、SDGsの観点から問題点や改善策を考える事例
 第2学年「住みやすいまちづくりをめざして」学習指導要領との関わり：横断的・総合的な課題

2-1 本時の指導計画作成に当たっての工夫、配慮事項等

本時では、生徒が自ら考え行動し、生徒の疑問や問題意識を引き出せるテーマにするため、質問・疑問マトリクスを用いて自分たちの町のまちづくりについて課題を設定できるように工夫した。

2-2 本時の学習評価に当たっての工夫、配慮事項等

東京のまちづくりについての探究活動を基に、SDGsの観点や多様な立場の人の視点から見た自分たちの町のまちづくりについての課題を設定していく態度を評価できるようにした。また、生徒がどのように追究していきたいと考えているか、どのようなところに課題意識をもっているかを把握することができるよう、ワークシートへの振り返りの記入から分かるようにした。

1 単元名 住みやすいまちづくりをめざして（第2学年 50時間）

2 単元の見どころ

国内外から様々な立場の人が訪れたり、暮らしたり、通勤・通学したりする東京と自分たちの町の特徴を調査する学習を通して、SDGsの観点から住みよいまちづくりがどのようなものなのかを理解し、多様な人の視点からまちづくりを考えるとともに、自らの生活に生かしたり、将来まちづくりに参画するときの参考にしたりできるようにする。

3 生徒の実態（省略）

4 教材について

本市は、都内への通勤・通学がしやすく、ニュータウンも開発され、生徒の親世代では本市が生まれ育った地元ではない家庭も多く存在する。また、中心部から離れた場所には田畑が広がり、“新しい町”と“田畑”が存在する。

本市が10年後、20年後と誰もが住みやすいまちであるために、自分たちに何ができるかを考えることが大切となる。そこで、自分たちの町が住みよい町になるためにSDGsの様々な観点を知る学習を行う。その上で、今後、多様な立場の人たちの視点があることを理解するために、様々な人々が行き交う東京と自分たちの町の特徴を比較するために、書籍やインターネットで調べる学習を行う。そして、校外学習で訪れる東京においてグループで実地調査を行い、実際に目にしたまちづくりの特徴と自分たちの町の特徴との比較をするなど探究的な学習活動とする。東京のよかった点をどのように自分たちの町に取り入れていけるか、また新たに見付かった改善点はどのように解決していけるか、将来自分たちの町が誰もが住みやすいまちになるよう問題点や改善策を考えることができるようにした。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 自分たちが住んでいる町には、多様な人が住み、様々な視点があることを理解している。 ② 課題を追究していく中で、書籍やネットの情報だけでなく、実地調査して入手した情報を分類している。 ③ SDGsの観点から住みよいまちづくりについて調べることが、将来の自分たちの生活につながることに気付いている。	① SDGsの観点を踏まえ、自ら自分たちの町のまちづくりについての課題を設定し、課題の解決に向けて意欲的に取り組んでいる。 ② 書籍やインターネット、現地（東京）での実地調査から適切な情報を収集している。 ③ 様々な方法で得た情報を、相手に伝わるように整理したり、分析したりしている。 ④ 誰もが住みやすいまちづくりになるように、提案や改善策を効果的に表現している。	① 様々な立場の人の考え方や感じ方を理解し、課題を解決しようとしている。 ② 自ら立てた問いの解決に向けて他者の考えと比較し参考にしながら、課題の設定をしようとしている。 ③ SDGsの観点に照らし、住みよいまちにするために、仲間と役割を分担したり、自他の考えのよさを生かしたりしながらよりよいまちづくりの提案になるよう協力して取り組んでいる。

6 単元の指導計画と評価計画（省略）

7 本時の学習指導計画（本時36 / 50時）

(1) 目標

東京と自分たちの町のまちづくりを比較する活動を通して、自分たちの町のまちづくりについて、SDGsの観点から追究する課題を設定しようとしている。

(2) 展開

学習活動	・指導上の留意点 ○評価（評価方法）	時間
1 前時の発表を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 東京のまちづくりについて調べたり、東京班別行動で実地調査したりして、自分たちがまとめた内容を振り返る。 東京のまちづくりの中の、公共交通サービスや自然災害への対策、都市型の環境対策、緑地や公共スペースなどについて、よい点、問題点について具体的に確認する。 	5
<p>前回の小単元での東京のまちづくりを、自分たちの町のまちづくりに生かし探究的な活動にするため、ゴールで問題提起や改善策を提案できるよう、イメージを生徒が理解できるようにする。</p>	<p style="text-align: center;">東京のまちづくりと比較して、自分たちの町の課題を見つけよう。</p>	
2 本時の目標と小単元の学習の流れを知る。	<ul style="list-style-type: none"> 前回までの小単元で調べた東京のまちづくりの特徴が、自分たちのまちに生かせるか考える。 <p>SDGsで学習した住み続けられるまちづくりについて、中学生の立場からの視点だけではなく、海外の人からの視点、体が不自由な人からの視点、小さい子供がいる家族からの視点など、多様な立場の人の視点から追究できるようにする。</p>	2
3 自分たちの町のまちづくりについて、どのような視点から調べればよいか課題を持ち、検討するためにアイデアを出す。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が取り組みたい課題を自ら見だし、疑問や問題意識を持てるように、質問・疑問マトリクス（焦点化、課題の発見）を使って、自分たちの町の現在の状況、過去、意図、仮定から表に沿って疑問を考え、住み続けられるまちづくりのための課題を設定できるようにする。 すべてのセルを埋める必要はないこと、1つのセルに複数の問いを立ててよいことを伝える。 なかなか問いを立てることができない生徒には、身近な生活の中で当てはまることか考えることができるよう個別に支援する。 自分たちの町のまちづくりについて、グループ内で他の生徒がどのような考えを持っているのか情報共有し、多様な疑問を知ること、自分の質問・疑問を見直すことができるようにする。 	20
<p>P280 指導計画作成の留意事項(1)</p>		
4 質問・疑問マトリクスの内容を、グループ内で情報共有する。	<ul style="list-style-type: none"> 質問・疑問マトリクスの中から、自分たち町のまちづくりについて、「マイセレクト課題」を1つ決める。 	10
5 追究してみようと思う「マイセレクト課題」を決める。	<ul style="list-style-type: none"> 次時、同じようなテーマを持つ生徒3、4人の探究グループを作りやすくするために「マイセレクト課題」をカードに記入する。 	8
6 本時のまとめと振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学びを振り返るの中で、生徒がどのように追究していきたいと考えているか、どのようなところに課題意識をもったかなどを記入できるようにする。 <p>○質問・疑問マトリクスの中から、実際に自分たちの町のまちづくりについて、多様な立場の人の視点から見たよい点や問題点の中から探究してみたい問いを選び、他者の考えと比較し、参考にしながら意欲的に課題を設定している。[態]②（ワークシート）</p>	5
<p>主体的に学習に取り組む態度②の姿を、より具体的な課題を設定しているかという具体的な姿に捉え直して評価する。</p>		
<p>（期待される生徒の振り返り）「今住んでいる人が高齢化したらどのように変化していくのか？」 SDGsで学んだ「誰もが住み続けられるまちづくり」ってどんな町なのか、小学生や中学生がいる家族がたくさん暮らすこの地域が、高齢化したときにどのような町になっていくのか、高齢者も住みやすい町になるのか気になった。</p>		

8 板書計画

《課題》東京のまちづくりと比較して、自分たちの町の課題を見つけよう。

小単元の 学習の流れ	自分たちの町を見てみると・・・					
		出来事	状況・条件	選択	人	理由・要因
	現在					
	過去					

★マイセレクト課題を立てよう！

- ・今住んでいる人が高齢化したらどのように変化していくのか？（人・仮定）
- ・現在、町の災害（水害）対策はどうなっているか？（出来事・現在）
- ・この地区のまちづくりはどのようにされてきたか？（出来事・過去）

生徒から出てきた問いを観点ごとに分類し、板書で紹介して全体で共有する。

何人かの生徒のマイセレクト課題を全体で共有する。

2-3 本時における指導と評価の実際

2-3-1 質問・疑問マトリクス

生徒が取り組みたい課題を疑問や問題意識をもとに、自ら見いだすようにすることが課題設定の場面では大切となる。そのために、質問・疑問マトリクスを用いて自分たちの町についての現状やこれからどうなるのかなど疑問に思うことを出し、課題を設定しやすいようにした。

次に、質問・疑問マトリクスで出た自分たちの町に対する問いをグループで情報共有し、「マイセレクト課題」を生徒一人一人がもつことができるようにする。その「マイセレクト課題」を全体で共有し、同じようなテーマを持つ

生徒3、4人の探究グループを作り、探究的な学習を進めていくことができるようにする。その際、SDGsで学習した「住み続けられるまちづくり」の観点や、多様な立場の人の視点から見たよい点や問題点に気付くことで、追究しようとする態度を育成できるようにした。

2-3-2 生徒から出た「マイセレクト課題」を、SDGsの観点から、実際どのように評価したかについての事例

今住んでいる人が高齢化したらどのように変化していくのか。
（人・仮定）

SDGsで学習した誰もが住み続けられるまちづくりの観点を生かして、ファミリー層が暮らす現在の地域が、高齢化したときにどのような問題が出るのかについて追究しようとしている。

東京のまちづくり（浅草・隅田川付近）と比較して、同じように川に挟まれた地域の水害対策はどのようになっているのか興味をもち、追究しようとしている。

現在、町の災害（水害）対策はどうなっているか。
（出来事・現在）

この地区のまちづくりはどのようにされてきたか。
（出来事・現在）

新興住宅地として開発されてきた自分たちの地区のまちづくりの過程を知ろうとしている。

2-3-3 評価に基づく改善のポイント

まちづくりという観点で質問・疑問マトリクスを活用して疑問を立てる活動を通して、SDGsで学習した「住み続けられるまちづくり」にするためにどうしていくのか、個人で課題を見つけていくことができるようにする。さらに振り返りの記入状況により、生徒の課題の設定時の思考の変容を見取りながら、今後、生徒が自分たちの町のまちづくりへと探究的な学習が進めていけるようにする。